

承認指令書番号	3 動薬第986号
販売開始	2016年4月

エンロフロキサシン注50「KS」

【本質の説明又は製造方法】

本剤は、ニューキノロン系合成抗菌剤のエンロフロキサシンを有効成分とする牛・豚用の注射剤です。エンロフロキサシンは、多くのグラム陽性菌及びグラム陰性菌に対して殺菌的に作用します。

【成分及び分量】

本品 100 mL 中

有効成分	含量
エンロフロキサシン	5 g

【効能又は効果】

有効菌種：本剤に感受性の下記菌種

大腸菌、バクテロイデス・ムルティシダ、アクチノバシラス・ブルロニューモニエ、マイコプラズマ・ボビス、ウレアプラズマ・ディパーサム

適応症：第一次選択薬が無効の場合の下記適応症

牛：肺炎、大腸菌性下痢症

豚：胸膜肺炎、大腸菌性下痢症

【用法及び用量】

1 日 1 回、体重 1 kg 当たりエンロフロキサシンとして下記の量を牛では頸部皮下に、豚では頸部筋肉内に注射する。

牛：肺炎	2.5 ～ 5 mg	3 ～ 5 日間
大腸菌性下痢症	2.5 mg	3 日間
豚：胸膜肺炎	2.5 ～ 5 mg	3 日間
大腸菌性下痢症	1.25 ～ 2.5 mg	1 ～ 3 日間

投薬開始後 3 日以内に治療効果を確認し、効果が見られない場合には獣医師の判断に基づき薬剤の変更等を行うこと。

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は、効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
- ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。なお、用法・用量に定められた期間以内の投与であってもそれを反復する投与は避けること。
- ・本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物（牛、豚）について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。

牛：食用に供するためにと殺する前 14 日間又は
食用に供するために搾乳する前 60 時間

豚：食用に供するためにと殺する前 14 日間

(使用者に対する注意)

- ・本剤は、強いアルカリ性(pH 約 11)であるので、皮膚、飲食物についた場合には速やかに水洗いすること。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・食品とは区別して保管すること。
- ・本剤の保管は、直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・注射器具は滅菌されたものを使用すること。
- ・誤用を避け、品質を保持するため他の容器に入れかえないこと。

- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分量の許可を有した業者に委託すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・本剤が眼に入った場合には多量の流水(水道水)で十分に洗った後、医師の診察を受けること。
- ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。

(牛及び豚に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

(専門的事項)

①重要な基本的注意

- ・本剤は、第一次選択薬が無効の症例のみに限り使用すること。
- ・本剤の使用に当たっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、適応症の治療上必要な最小限の投与に止めること。

②副作用

- ・本剤は、注射部位で硬結を起こすことがある。

③相互作用

- ・類似化合物で非ステロイド性消炎鎮痛剤との併用により、まれに痙攣が発現するとの報告がある。

④その他の注意

- ・本剤は、1 回の投与量が多い場合又は連続投与する場合は注射部位を変えること。
- ・本剤は、ナリジクス酸高度耐性株に対して効力を示すが、フルオロキノロン高度耐性株に対しては効力を示さない。

【薬理学的情報等】

(薬物動態)

- ・牛にエンロフロキサシンとして 5 mg/kg を頸部皮下に投与した場合、最大血中濃度到達時間 (t_{max}) は 1.3 時間、最大血中濃度 (C_{max}) は 0.679 $\mu\text{g/mL}$ 、血中濃度-時間曲線下面積 (AUC_t) は 5.10 $\mu\text{g}\cdot\text{hr/mL}$ であった。
- ・豚にエンロフロキサシンとして 5 mg/kg を頸部筋肉内に投与した場合、最大血中濃度到達時間 (t_{max}) は 3.9 時間、最大血中濃度 (C_{max}) は 1.69 $\mu\text{g/mL}$ 、血中濃度-時間曲線下面積 (AUC_t) は 21.3 $\mu\text{g}\cdot\text{hr/mL}$ であった。

(薬効薬理)

- ・エンロフロキサシンは細菌の DNA 複製に必要な DNA ジャイレースの A サブユニットを不活化することにより、DNA 合成を阻害して殺菌的に作用する。

【包装】

100 mL × 1 バイアル

【製品情報お問い合わせ先】

共立製薬株式会社 学術
〒102-0073
東京都千代田区九段北一丁目 11 番 5 号
TEL 03-3264-7559

製造販売業者

共立製薬株式会社
東京都千代田区九段南 1-6-5

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所 (<https://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>) にも報告をお願いします。